

## 第4回コンソーシアム連携協議会の記録（一部抜粋）

令和8年2月13日(金)  
宮崎県庁防災庁舎 防53

【協議の記録】 ◎成果 ○意見 ▲課題

### <協議1 特別番組について>

- ◎ 地道だけど続けていくことの大切さが伝わった。
- ◎ 30分だったので、反響があった。
- ◎ 職場でも広報したところ、見た人が多かった。
- ◎ 手話を広めるために、楽しむためにデフカフェを始めた。大学の協力で始めたが広がっていくのは良い。
- ◎ 日向市の広報の仕方について、参考になった。
- PRすれば、放送時間帯に関係なく、見る人は多いと思う。
- 誰でも参加できる、という趣旨や空気をもっと伝えられるとよい。

### <協議1 委託事業について>

- 学校を卒業したら、一気に社会参加することがなくなる。高鍋町の取組のように、事業所とつながって、活動を知ってもらってから、保護者とその後一人でも行けるようになるのは大切と感じた。
- 初めてつくるものではなく、今していること、できているコミュニティを活用する事業を展開するという方向性で進めていけるとよい。
- 市町村にもっと広げる方法として、まずは見学に来てもらうとよいのではないかと。
- イベントとイベントをつなぐ、いろんなこととコラボする。(フェス)
- ▲ 事業所に伺って、共生社会のイベント依頼や宣伝する方がよい。  
→ メールだけではいけない
- ▲ 学校では、各種イベントの啓発についてメールを使うことが多いが、参加者が少ない。  
→ メールやSNSだけでは、あまりイメージがつかない。

### <協議2 コンファレンス>

- ◎ 参加者の意見を取り上げていたのがよかった。
- ◎ 学習の場をひろげる1つのイベントだったと思う。
- ◎ 延岡の事業所による参加型の取組が素晴らしい。そのような活躍の場がもっとあるとよい。
- ◎ 会場や、特別ゲストの選考がよかった。
- ◎ 濱田氏をゲストに呼ぶことは大きな意義があった。
- ◎ コンファレンス自体が、生涯学習を知る、というきっかけづくりになり、それが深い学びになっていくのではないかと。
- 障がいのある方にとっても、ない方にとっても学びがある生涯学習という視点が大切  
→ 今回のような、だれもが楽しめるコンファレンスがよい。
- きっかけづくりとしては、広くやるとよい。体験ブースなども、きっかけとなる。
- トークセッションでは、参加する市町村数を減らしてもいいのでは。

- 各市町村でサテライト会場を設け、そこでも体験ブースをつくってはどうか。
- 体験ブースを行った場所でコンファレンス、2階で体験ブースも有りではないか。
- コンファレンスは、誰もが参加できる内容にし、県内のさまざまな場で講座が実施されるきっかけづくりとして捉えればよいのではないか。
- ▲ 誰でも開かれた、という割に事前申込制がもったいなかった。
- ▲ 知的障がいの部分が少なかった。

<協議2 コンファレンス（デフカフェ）>

- ◎ 実際に聴覚障がい者と会う機会は少ない。手話に興味がある人も増えてきている。そのきっかけとしてデフカフェを開催するとよい。
- ◎ 都城でやるのは初めて、講師も初めて、その中で、参加者も講師側も楽しめたと思う。
- ◎ いつも同じところで開催するのではなく、様々な場所で開催することに意義がある。
- 公立大学は食堂や図書室を会場にしている。
- デフカフェと手話を広げるのは切り離れたほうがよい。
- デフカフェ後に、手話を学ぶところへつなぐとよい。
- ▲ スタバでないとダメなのか。
- お店ではなく、公民館や集会所で手話サロンを広げることができる。
- ▲ 会場が狭い。
- ▲ 受付とオーダー場所が近いことも課題であった。
- ▲ いろんな人を受け入れる配慮が足りなかった。

<協議2 コンファレンス（体験ブース）>

- ◎ 商業施設がよかった。
- ◎ おおむね楽しんでやってもらっていた。
- ◎ 興味を持った人は多かった。
- ◎ 体験ブースの内容がとても良かった。
- ◎ 集客商業施設が一番良い。
- スマホ講座は、何をするか決まっているとよかった。
- 説明書は、もっと視覚的だとよかった。
- 委員の打ち合わせの時間があると良かった。
- 参加者と委員が交流できるような自己紹介の時間を設けたり、協働しないとできない活動をしたりはどうか。
- 2回か3回シミュレーションできるよう、事前準備が欲しい。
- 事前にスタッフと打ち合わせができるとよかった。
- ▲ 全体打ち合わせの時間が慌ただしかった。
- ▲ 会場が少し狭かった。（車椅子の方、報道対応）
- ▲ 質問をされても答えることができなかった。
- ▲ 間口が狭かった。